

# EU Indicators

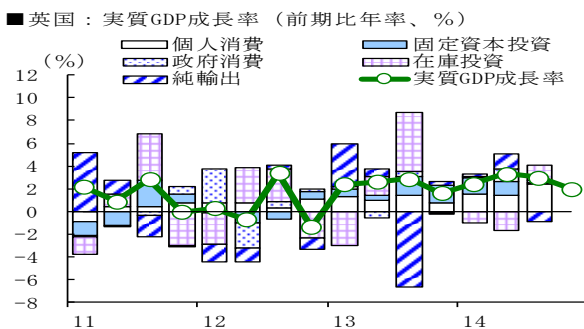
## 欧州経済指標コメント：10-12月期英国GDP（速報値）

発表日：2015年1月28日（水）

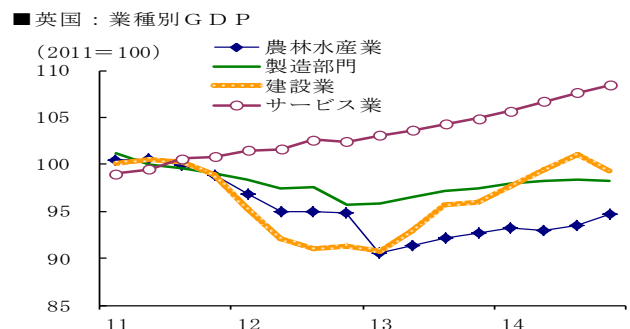
～景気過熱を心配していた頃が懐かしい～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

- 27日に発表された昨年10-12月期の英国の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.5%、同年率+2.0%と8四半期連続のプラス成長を記録したが、年率3%を上回る過去2四半期の成長ペース（4-6月期が+3.3%、7-9月期が+3.0%）から鈍化した。年間を通じて堅調な成長ペースが続いたことで、2014年の年間成長率は+2.6%と2013年の+1.7%から加速、2008-09年の金融危機以前の成長率に近い水準に復帰した（2000-07年の平均成長率は+3.0%）。
- 業種別には、サービス部門（7-9月期：同+0.8%→10-12月期：同+0.8%）が流通・宿泊・飲食、輸送・倉庫・通信、企業向けサービスが牽引し、前期並みの堅調な拡大ペースを維持したものの、製造部門（同+0.2%→同▲0.1%）が鉱業や電力・ガスの不振で8四半期振りのマイナスとなったほか、建設部門（同+1.6%→同▲1.8%）が7四半期振りのマイナスに転落し、成長の足枷となった。需要項目別の内訳は速報段階では未発表だが、製造・建設部門が不振であることや、月次の小売統計や貿易統計が堅調を維持していることから、設備投資や建設投資の低迷が示唆される。
- 今回の成長率はBOEの想定を下振れ（1月のMPC時点で同+0.8%）。原油安の影響もあり物価はゼロに向けて急降下。失業率が一段と低下するなど労働需給の逼迫が続いているが、賃金上昇圧力は限定的で、利上げを急ぐ必要はない。1月のMPCでは昨夏以来利上げを主張していたウィールとマッカファティの2委員が利上げ主張を撤回。年内の利上げ開始の可能性は遠退いた。



出所：英国家統計局



出所：英国家統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
13/4-6月期	8.1	2.6	(1.9)	1.6	▲2.6	2.4	(1.7)	(0.7)	19.7	16.3
13/7-9月期	2.7	2.9	(9.5)	2.2	2.0	11.2	(5.2)	(▲6.6)	▲12.9	7.6
13/10-12月期	4.3	1.6	(1.4)	1.3	▲0.3	9.5	(▲0.0)	(0.3)	▲5.2	▲5.5
14/1-3月期	4.0	2.5	(2.3)	2.4	0.9	8.9	(▲1.0)	(0.2)	2.4	1.7
14/4-6月期	5.4	3.3	(2.0)	2.3	5.7	6.7	(▲1.6)	(1.3)	▲3.1	▲6.7
14/7-9月期	5.3	3.0	(3.9)	3.9	1.2	0.6	(1.3)	(▲0.9)	2.6	5.2
14/10-12月期	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：英国家統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。